

## 編集後記

『創価教育研究』第2号をようやく発刊することができた。創刊号に比べ、内容がかなり大部となっている。この点は、1年間の当センターの活動が、かなり活発になされた証左ではないかと、秘かに自負するものである。

さて、本号に掲載したのは、論文2本、研究ノート4本、研究会報告3本、講演7本、資料紹介4本、書評1本である。研究会報告と資料紹介は、今回初めて取り扱うことになったものであり、本号の特色といてよかろう。

2本の論文は、共に牧口常三郎先生を対象としたものであるが、これまでの牧口研究とはかなり視点が異なるものといえる。今まであまり取り上げられてこなかった問題を解明しようとするものであり、今後の研究の発展にも大いに寄与するものではなかろうか。多くの示唆に富んでいると言えよう。

研究ノートの4本は、それぞれ緻密な実証研究の成果である。したがって、ここで取り扱われている各種の資料は、それぞれの分野における基礎的なものとなりうるものばかりであり、多くの研究者にとって非常に有効な論稿であろう。

研究会報告は、当センターで開催された研究会を、講師の方々にまとめていただいたものである。研究会は、その内容と性質から勘案して、参加していただく方々はそれほど多数ではない。しかし、そこで議論された内容は、多くの方々に共有していただくことが重要ではないかと考え、担当講師の先生方に要旨をまとめていただいた。ただ残念なことに、杉本芳雄先生は研究会の前週に倒れられ、そのまま帰らぬ人となられてしまった。本号に掲載させていただいた論稿が、遺稿となったわけである。謹んで哀悼の意を表すると共に、最後まで当センターの活動に献身的にご協力をいただいたことに、心より感謝申し上げます。

講演は、合計6回開催された。いずれも盛況で、沢山の方々にご参加をいただいた。その内容は非常に充実しており、多くの示唆に富むものであった。講演会については、初年度から、参加したくても参加できず、その内容だけでも知りたいとの要望が数多く寄せられてきた。そうした方々のためにといいことで、創刊号で講演内容を掲載したところ、非常に好評を博した。それゆえに、この講演会に関しては、今後とも本紀要に掲載する必要性を強く感じている。今回掲載分も、講演会の雰囲気や講師の方々の熱意が、行間に満ちあふれるものになっている。

資料紹介に関しては、これまで未発表のものを中心に、特に研究者の方々の今後の研究に寄与できるようなものを中心に掲載した。牧口先生の未公開論文や書簡、また『人生地理学』に関する書評や、若き日の創立者の読書をたどることができるデータベースなど、活用方法が無限に存在する資料ばかりである。多くの方々の研究支援に、少しでもお役に立てればこれに過ぎた

る喜びはない。

本号の発刊に際しても、多くの方々のご協力を賜った。本年もまた温かい数多くの激励を下された創立者・池田大作先生にまず心より御礼申し上げたい。そして、本号に原稿を寄せてくださった先生方、また多忙のなか、発刊に携わってくださったセンター員の方々、印刷を引き受け、難しい注文を快くお聞き届けいただいた矢島印刷とご担当の神矢繁典さんにも、この場をお借りして、心より御礼を申し上げる次第である。

今後さらに、牧口・戸田先生、そして何よりも創立者池田先生に関する研究が、より一層発展していくことを願いつつ擱筆することとしたい。(K. K)